



## COP23 サイドイベント開催報告 「NDC の達成に向けた二国間クレジット制度 (JCM) の貢献」

2018 年 1 月 4 日  
一般社団法人海外環境協力センター (OECC)

環境省、海外環境協力センター (OECC) は、2017 年 11 月 6 日～17 日にドイツ・ボンで開催された国連気候変動枠組条約第 23 回締約国会議 (COP23) のサイドイベントとして、「NDC の達成に向けた二国間クレジット制度 (JCM) の貢献 (The JCM contributions towards achievement of the NDCs)」を開催しました。当日は各国の政府関係者や JCM パートナー国の JCM 事務局ほか専門家の積極的な参加により、パネリストと活発な質疑応答がなされました。

以下、敬称略

- タイトル：国が決定する貢献 (NDC) の達成に向けた二国間クレジット制度 (JCM) の貢献 (“The Joint Crediting Mechanism (JCM) contributions towards achievement of the National Determined Contributions (NDCs)”)
- 日時：2017 年 11 月 9 日 (木) 13:00-14:30
- 主催：環境省、海外環境協力センター (OECC)
- 会場：ジャパン・パビリオン
- ファシリテーター：竹本 和彦 (OECC 理事長)
- プレゼンター：レー・ヴァン・フー (ダナン配電公社 プロジェクト・マネージャー)
- パネリスト：アナンド・ツォグ (モンゴル環境観光省 気候変動・国際協力課 気候変動係員)、グエン・ヴァン・ヒューイ (ベトナム天然資源環境省 気候変動局 科学技術・国際協力部ディレクター)、小塚 一久 (日本国環境省 市場メカニズム室 国際企画官)

### 概要

- JCM は日本とパートナー国 (17 か国) が協力して構築し、積極的に運用している国際的な市場メカニズムのひとつである。JCM プロジェクトにおける温室効果ガス排出削減・吸収への貢献は定量的に評価され、各国の NDC の削減目標の達成に活用される。
- JCM の最新動向を紹介するビデオ・プレゼンテーションを上映した後、ベトナム南部・中部地域の配電網におけるアモルファス高効率変圧器の導入プロジェクトを実施するベトナム・ダナン配電公社より、JCM を活用することによるメリットや期待、また今後の水平展開への展望などが発表された。
- パネル・ディスカッションでは、JCM パートナー国であるモンゴル、ベトナム政府からパネリストを迎え、効率的かつ効果的な NDC 達成に向けた JCM の有効な活用方策について日本国環境省とともに議論した。

#### キーメッセージ

- JCM を活用した成功事例を積み重ねることで、パートナー国における排出削減の促進に貢献可能な適切な技術を特定でき、NDC の達成にも貢献できる。
- JCM 資金支援事業を足掛かりとして、省エネ技術等の自律的な普及が実現している。
- JCM パートナー国政府は、プロジェクト実施に係るアイデアや経験を現地の民間セクターと共有する場をアレンジすることにより、積極的に更なるプロジェクトの実施を後押ししている。
- 政府による政策は市場にシグナルを送る意味で重要である。

#### 発表内容

レー・ヴァン・フー（ダナン配電公社 プロジェクト・マネージャー）：「ベトナム・ダナン市における JCM プロジェクトの実施・成果・展望（“JCM Project in Danang City, Vietnam – Implementation, Achievements and Expectations”）」

- 2016 年に実施された JCM プロジェクトを通じて得られた省エネルギーの成果や投資費用の内訳等が共有された。ダナン配電公社は自社ネットワークに更に多くのアモルフラス高効率変圧器を導入することにより、2020 年に向けて同社が掲げる目標を達成することを期しており、このような取組は自社だけでなく顧客とクライアントにも裨益する気候変動対策であると述べた。

#### パネル・ディスカッションの議事要旨

ファシリテーターが 3 つの質問を用意し、各パネリストが回答した。

#### Q1. JCM の現状と進捗

- モンゴル： JCM として実施された暖房用高効率ボイラー（Heat Only Boiler: HOB）プロジェクトは、これまで質の悪い石炭を燃焼することで発生していた大気汚染を軽減したため、実用的で価値があるプロジェクトと認識されている。郊外に建設された太陽光発電プロジェクトでは太陽光パネルの下にビニールハウスを設置し、年間を通じた農耕を可能にするため、ソーラーファームと呼ばれている。ダルハン市における 10MW 太陽光発電プロジェクトは短期間で形成することに成功した。省エネ・再エネプロジェクトに加えて、適応関連のプロジェクトの実施も歓迎である。
- ベトナム：これまでにベトナムとして 5 つのプロジェクト、10 種類の方法論を登録済であり、トップランナーであるインドネシアに続いて多い。我々は常時、提案プロジェクトを JCM として承認する準備ができています。先日開催された第 6 回日本・ベトナム合同委員会では、2 プロジェクトからクレジットが発行された。ベトナム現地のプロジェクト実施事業者（PP）は JCM から多くの便益を得てきた。
- 日本：JCM は実施段階にあり、17 か国のパートナー国で 100 以上のプロジェクトが候

補となっている。クレジットは4か国で発行済である。

## Q2. 効率的かつ効果的な NDC 達成に向け、JCM の実施に期待すること

- 日本：NDC で 26%の排出削減目標を掲げており、JCM により 5,000 万から 1 億トン CO<sub>2</sub> を削減する予定である。ネット削減を実現するため JCM の方法論は非常に保守的に設計されており、ネット削減分はクレジット化されない。JCM プロジェクトがより多く実施されることで、パートナー国における排出削減が促進される。JCM をどのように拡大していくかという点について、例えばベトナムのアモルファス高効率変圧器導入プロジェクトにおいては、JCM が地理的に水平展開されたことにより、今やベトナム配電網の 1 割で同高効率変圧器が導入されており一つの成功事例であると言える。
- ベトナム：ベトナムは、国際的な支援がある場合には 25%排出削減する目標を掲げている。ベトナムの NDC では、優先されるべき技術をリスト化して特定する予定であり、JCM はそれら優先技術リストに則したオプションのひとつである。ベトナムの NDC に JCM をどのように活用したら効果的か、また、ベトナムの取分となるクレジットをどのように取り扱うか、慎重に議論しているところである。JCM は NDC の一部として実施されるべきである。
- モンゴル：GHG インベントリを整備するためには重点的な能力構築が必要。JCM による能力底上げの結果もこれに貢献しうる。

## Q3. 成功事例を水平展開するため、PP を如何に支援するか

- 日本：アモルファス高効率変圧器導入プロジェクトは現地企業と連携の下で実施されてきた。他の電力会社も追随し、JCM 資金支援事業を超えて波及効果が及んでいる。JCM を足掛かりとした省エネ技術の自律的な普及が実現しており、このような横展開の事例は、アモルファス高効率変圧器のほか、チラー、LED 照明プロジェクト等でも見られる。
- ベトナム：民間セクターのためのプラットフォームを通じてコミュニケーションを促している。JC では、優先技術に加えて横展開を牽引する技術も選定していきたい。
- モンゴル：横展開されるべき技術のアイデアを多く持ち合わせている。来年以降はモンゴル政府による普及啓発を強化し、民間セクターと共に更なるプロジェクト実施のための議論を行いたい。

(報告者：小柳 百合子)

---

サイドイベント開催報告については以下をご覧ください。

日本語版 [https://www.carbon-markets.go.jp/jp\\_info/jp\\_info\\_event/y\\_2017/20171109-2/](https://www.carbon-markets.go.jp/jp_info/jp_info_event/y_2017/20171109-2/)

英語版 [https://www.carbon-markets.go.jp/en\\_info-2/en\\_info\\_event/y\\_2017/20171109-2/](https://www.carbon-markets.go.jp/en_info-2/en_info_event/y_2017/20171109-2/)